

食の多様性と文化の盛衰

総合地球環境学研究所・教授

羽生 淳子

考古学研究の可能性

- 文化変化の原因と結果の解明
- 過去と現代の環境問題の比較
 - 生物多様性や食の多様性の減少
 - 自然破壊
 - 気候変動
- 数百～数千年の時間幅を扱うことができる

プロジェクトの焦点

食の多様性と食糧生産の規模、文化の長期的
持続可能性の関係

大規模で均質化された食糧生産

長所:

- 短期的には大量の生産量を確保

短所:

- 食の多様性の低下
- 気候変動や天災による被害を受けやすい
- 環境へのダメージが大きい(土壌劣化、水質汚染、植生破壊など)

大規模な食糧生産の弊害は、現代に特有ではなく、先史時代からあった

環境問題を、過去から現在までの 人類史の観点から考える

生産活動の集約化・大規模化は、短期的な人口支持力を増大する一方で、その長期的な持続には様々な問題が生じる

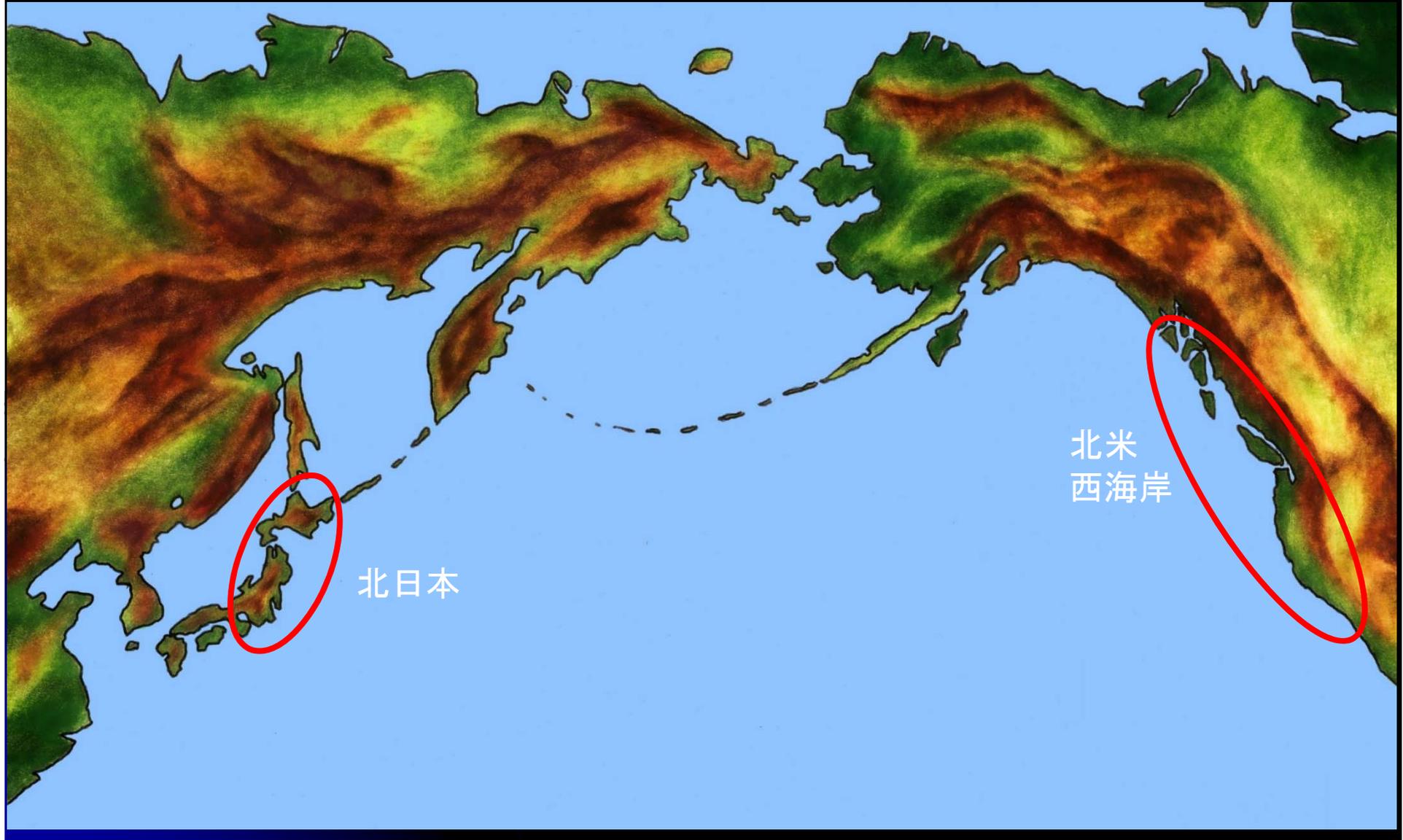
考古調査

民族・社会調査

実践・普及



事例研究： 環北太平洋地域



考古・事例研究1

縄文時代中期文化の盛衰

- 生業の集約化にともなう人口増大とシステムの脆弱化との関連を考える上で重要な事例
- 植物質食料(木の实?)への過度の依存→初期は人口増加が起こるが、縄文中期末(約4500年前)には急激な人口減少



考古・事例研究2

北米北西海岸・カリフォルニアの 先住民族

- 多様な食糧獲得活動を維持(サケ・ドングリなど)
- 持続可能性の高い社会



現代の事例研究

考古調査と同時に、北アメリカ先住民族のコミュニティや小規模な農家・漁家のフィールド調査を通じて、小規模で多様な生産活動の長所と問題点を検討

